

内藤礼

Rei Naito: come and live - go and live

生まれておいで
生きておいで



東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

上野公園
Ueno Park

2024.6.25 | 火 | — 9.23 | 月・休 |

内藤礼

Rei Naito: come and live - go and live

生きておいで
生まれておいで

会期：	2024 年 6 月 25 日（火）～ 9 月 23 日（月・休）
会場：	東京国立博物館 平成館企画展示室、本館特別 5 室、本館 1 階ラウンジ
主催：	東京国立博物館
特別協力：	エルメス財団
協力：	タカ・イシイギャラリー
開館時間：	午前 9 時 30 分～午後 5 時 ※入館は閉館の 30 分前まで
休館日：	月曜日（ただし、7 月 15 日、8 月 12 日、9 月 16 日・23 日は開館）、7 月 16 日（火）、8 月 13 日（火）、9 月 17 日（火）
観覧料＜税込＞：	一般 1,500 円（1,400 円）、大学生 1,000 円（800 円）

※本展チケットで総合文化展もご覧いただけます。 ※（ ）内は前売料金 ※前売券は 4 月 11 日（木）～ 6 月 24 日（月）まで、オンラインチケット等で販売。詳細は、確定し次第、本展ウェブサイト等でお知らせします。
※高校生以下、障がい者とその介護者 1 名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。
※東京国立博物館キャンパスメンバーズ会員の学生の方は、当日券を 500 円（500 円割引）でお求めいただけます。
正門チケット売場（窓口）にて、キャンパスメンバーズ会員の学生であることを申し出、学生証をご提示ください。

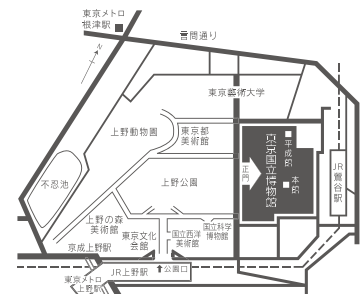
お問合せ： 050-5541-8600（ハローダイヤル）

※混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。 ※荒天の場合、一部会場が閉場となる場合があります。
※会期中の展示替えはございません。 ※詳細は、本展ウェブサイトでご確認ください。

連携企画： 本展はエルメス財団と共同で企画されました。展覧会は、同じタイトルのもとに、当館からはじまり、銀座メゾンエルメス フォーラムへと続きながら、再び当館へと戻る円環として構想されました。
「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」
2024 年 9 月 7 日（土）～ 2025 年 1 月 13 日（月・祝）銀座メゾンエルメス フォーラム

本展ウェブサイト： https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2637
SNS：X（旧 Twitter）@TNM_PR | Facebook TokyoNationalMuseum | Instagram tnm_pr

報道関係お問い合わせ：
「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」広報事務局（ユース・プランニング センター内） 担当：片山、斎藤、池袋
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町 9-8 KN 渋谷 3 ビル 4 階
TEL：03-6820-8105 Email：naitorei-tnm@ypcpr.com



〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9
JR 上野公園駅・鶯谷駅南口より徒歩 10 分
東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅、
千代田線根津駅より徒歩 15 分
京成電鉄 京成上野駅より徒歩 15 分

本展概要

太陽が形づくる光と影、地が生成する水や石、大気が織りなす風や雨。美術家・内藤礼は、私たちの傍らにある自然の諸要素と日常のささやかな事物を受け止めることで、私たちが日々見過ごしがちな世界の片隅に宿る情景、知覚しがたい密やかな現象を見つめ、「根源的な生の光景」を出現させてきました。精緻に構想されるその作品の世界は、その場を訪れる人をそれぞれの沈潜にいざないます。

本展は、150年の歴史を持つ東京国立博物館の収蔵品、その建築空間と内藤との出会いから始まりました。1万数千年という時を超え、内藤は縄文時代の土製品に自らの創造と重なる人間のところを見出しました。それは、自然・命への畏れと祈りから生まれたものであり、作家はそこに「生の内と外を貫く慈悲」を感じたといいます。生の求めに迫られてつくりだされた一つ一つの土製品は、人間本来の姿を私たちに伝えるようです。会期中、自然光に照らし出される展示室では、かつて太陽とともにあった生と死を、人と動植物、人と自然のあわいに起こる親密な協和を、そっと浮かび上がらせます。

色彩に生を、風景に物語を、光に祈りを見出す内藤の作品は、縷々として尽きることなく私たちの世界を満たしてきた、遙か遠い時代から続く創造の営みを想起させます。そこには、人間が繰り返してきた「つくる」ということ、今につながる「生きる」ということへの希求が垣間見られます。時空を超えた交感がなされる会場は、空間よりも広く、時間よりも深く、目には見えない存在、耳では聞こえない声の確かさを感じ取る契機となることでしょう。本展の体験を通して、原始この地上で生きた人々と、現代を生きる私たちに通ずる精神世界、創造の力を感じていただけたら幸いです。

作家プロフィール

内藤礼（ないとう れい）

1961年広島県生まれ、現在東京を拠点に活動。「地上に存在することは、それ自体、祝福であるのか」をテーマに作品を制作。その作品制作において「生と死」は分別できないものとして問われている。光、空気、水、重力といった自然がもたらす事象を通して「地上の生の光景」を見出す空間作品を生み出してきた。

これまでの主な個展に「地上にひとつの場所を」佐賀町エキジビット・スペース（東京、1991年）、「地上にひとつの場所を」第47回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館（1997年）、「Being Called」カルメル会修道院（フランクフルト、1997年）、「すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している」神奈川県立近代美術館 鎌倉（2009年）、「信の感情」東京都庭園美術館（2014年）、「信の感情」パリ日本文化会館（2017年）、「Two Lives」テルアビブ美術館（2017年）、「明るい地上にはあなたの姿が見える」水戸芸術館現代美術ギャラリー（2018年）、「うつしあう創造」金沢 21 世紀美術館（2020年）、「breath」ミュンヘン州立版画素描館（2023年）がある。恒久展示作品に「このことを」家プロジェクト きんざ、ベネッセアートサイト直島（2001年）、「母型」豊島美術館（2010年）がある。

1994年日本現代藝術奨励賞（インスタレーション部門）、2003年第一回アサヒビール芸術賞、2018年第 60回毎日芸術賞、2019年第 69回芸術選奨文部科学大臣賞（美術部門）受賞。

本展の見どころ

1. 美術家・内藤礼が東京国立博物館と向き合い、生まれる作品空間

150年余の歴史を有する東京国立博物館には、およそ12万件の収蔵品が収蔵されています。本展では、美術家・内藤礼が、その中から注文主など作り手以外の意図が制作に大きく関与するようになる以前に作られた縄文時代の土製品を選び、さらに当館の建築や歴史を独自の視点で読み解くことで、あらたな空間作品を制作します。

2. 自然光のもと天気や時間により変容する、裸の空間

会場のひとつとなる本館特別5室では、「地上の生の光景」を希求する作家により、長年閉ざされていた大開口の鑑戸が開放されます。また、場の本来の姿が顕れるようにと、カーペットと仮設壁が取り払われた展示室は、建築当初の裸の空間として立ち現れ、その空間を自然光が満たします。訪れる日の天気や時間帯により刻々と変化する光の中で、作家が見つめた空間と作品の間に、静かに、変容を繰り返しながら起こる人と自然、生と死、内と外の交感をお楽しみください。

3. 時空を超え、2会場にわたるスケールで広がる内藤礼の世界

本展は、エルメス財団と共同で企画されました。作家の構想は当館を超えて、2か月後に公開される銀座メゾンエルメス フォーラムの空間へと続き、再び当館へと戻るものとなります。2会場にまたがる空間構成は、内藤が初めて見出した構想です。重なり合いながらも隔たりをもつ二つの場をつなぐのは、連作の絵画と立体作品。それらは、鑑賞者ひとりひとりの予感や記憶となり、流れる時間にあらがうことのできない人生や、いつかは消えゆく展覧会という存在の儚さを想起させることでしょう。少し先にある見えない世界、少し前にあったはずの見えない世界を辿りながら、時空を超える構想をお楽しみください。

参考画像



1
内藤礼《死者のための枕》2023 年
シルクオーガンジー、糸
撮影：高橋健治



2
内藤礼《このことを》2001 年、家プロジェクト
「きんざ」ベネッセアートサイト直島・香川
撮影：畠山直哉



3
「内藤礼：breath」2023 年、
ミュンヘン州立版画素描館
《color beginning》2023 年
紙にアクリル絵具
撮影：畠山直哉



4
「内藤礼：breath」2023 年、ミュンヘン州立版画素描館
《color beginning》2023 年 紙にアクリル絵具
撮影：畠山直哉



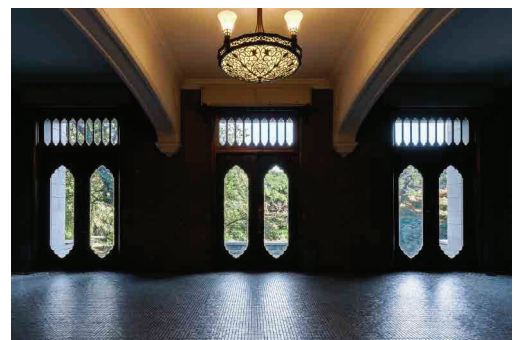
5
「内藤礼：すべて動物は、世界の内に
ちょうど水の中に水があるように存在
している 2022」2022 年、神奈川県
立近代美術館 葉山
《母型》2022 [2009] 年
水、ガラス瓶
撮影：畠山直哉

東京国立博物館 本館

1937年(昭和12年)竣工、翌年開館。関東大震災で倒壊した旧本館のあと、同じ場所に建てられました。建築は一般公募により渡邊仁が設計したもので、西洋風の建物に東洋風の瓦ぶき屋根を冠した「帝冠様式」と呼ばれる戦前の建物です。



6
東京国立博物館 本館外観



7
本館 1 階ラウンジ

*関連プログラムを予定しています。詳細は、確定し次第、本展ウェブサイト等でお知らせします。

広報用画像貸出

- 広報用画像を希望される方は、本展広報事務局までお申し込みください。
- ・ 広報用画像のご使用は、本展の内容をご紹介いただける場合に限りです。また、ご使用可能期間は本企画開催期間終了までとなります。なお、開催期間中であっても、再放送・転載など二次利用をされる場合は再度ご申請ください。
- ・ 画像の加工については事前に本展広報事務局までご相談ください。
- ・ 作品写真をご利用の際は、クレジットを必ずご記載ください。
- ・ 基本情報、画像使用確認のため、ゲラ刷り、原稿の段階で本展広報事務局までご送付をお願いします。
- ・ 掲載紙・誌、DVD、URL 等を本展広報事務局までご送付いただけますと幸いです。